

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
2004年度第2回常任幹事会議事要録

日時：2004年12月15日（水）14時～17時

場所：南山大学名古屋図書館

出席：金城学院大学（鈴木 卓美）、大同工業大学（光永 猛）
中京大学（中河原 省三、村上 康廣）、
東海女子大学・東海女子短期大学（大西 信行）
愛知大学（三浦 文博）、名城大学（飼沼 敏雄、丹羽 眞吾）
南山大学（大森 正樹、栗山 義久、西尾 雅樹） 敬称略

議事に先立ち、出席者の自己紹介が行なわれた。また議事の進行は理事校南山大学図書館長（大森）が担当し、下記の議題を協議した。

1. 報告事項（第1回常任幹事会〔4月28日〕以降の経過について）

（1）私立大学図書館協会関係

理事校南山大学（栗山）より資料（p.3-5）に基づき、標記報告が行なわれた。以下の点について補足の説明があった。

永年勤続表彰のあり方について第1回の永年勤続者表彰検討委員会が12月3日に開催された。同日は第2回常任幹事会が開催された後であった為、このメンバーを加えた拡大委員会とした。この中で委員の互選により委員長校が龍谷大学、副委員長校が早稲田大学にそれぞれ決定された。永年勤続表彰制度は原則廃止する方向で、代替の表彰制度や廃止の時期などを討議し、次年度の総会において具体案を提示できるようにする事を確認した。また2005年度の永年勤続表彰については見直しに関わる時間的猶予も少なく従来どおりの実施となる見通しである。

（2）西地区部会関係

理事校南山大学（栗山）より資料（p.6-7）に基づき、標記報告が行なわれた。主な点は次のとおりである。

1) 第2回役員会（2004年10月8日開催）が実施され次の議題内容について補足の説明があった。

次年度の総会で事前にアンケートを実施した上で館長懇話会を実施する事が承認された。

加盟館の増加に伴ない収入は増加するが、交付金の算出方法が固定されているため、繰越金が増加する一方である。そこで、各地区協議会への交付金額が妥当であるかの検討を次年度に向けて行う事、また総会・研究会費のあり方も会計の収支を明確にし、当番校に負担の掛からない方法に見直したいとの説明があり承認された。

2) 次年度の研究会実施に向け、第1回研究会運営委員会が10月26日に開催され、「大学図書館ユニバーサル化時代への展望」をテーマに案内文書を発送した。

現段階で2件の研究発表の申し出がある。

（3）国際図書館協力委員会

国際図書館協力委員会委員中京大学（中河原）より資料（p.8-9）に基づき、計5回の委員会開催および国際図書館協力シンポジウム、海外派遣研修、海外集合研修、寄贈資料搬送事業の各事業の実施報告があった。今年度の海外集合研修において当初8名の応募があり、選考により4名に決定したが内1名が健康上の理由により辞退した旨、また寄贈資料搬送事業に関しては11月に申請を締め切り現在2回目の手続き中である旨の補足があった。

（4）協会ホームページ委員会

理事校南山大学(栗山)より資料(p.10)に基づき、委員構成について今年度までは各地区から委員を選出し計14名で運営してきたが、次年度から会長校と東西地区から各3名選出の計7名体制で運営していく事、また必要に応じ協力委員を置く事ができることの報告があった。

(5) 東海地区協議会関係

理事校南山大学(栗山)より資料(p.11)に基づき、標記報告が行なわれた。

(6) 東海地区協議会研究会

研究会幹事校中京大学(中河原)より、資料(p.12-14)に基づき、計8回の運営委員会、「利用教育について」という年度テーマのもとに計5回の研究会、1回の研究集会を行った事について報告があった。この中で実施したアンケートについては次回発行の『館灯』に掲載する予定である。

(7) 東海地区協議会相互協力委員会

相互協力委員会委員長校金城学院大学(鈴木)より、資料(p.15-17)に基づき、次年度の正式統合を目指し、今年度はこれまでのところ情報化委員会と相互協力委員会の合同委員会を計4回、相互協力委員会単独の会議を計3回実施した事、および11月16日~17日の期間で実施された図書館実務担当者研修会について報告があった。

(8) 東海地区協議会情報化委員会

情報化委員会委員長校愛知大学(三浦)より、別添資料に基づき、計4回実施された情報化委員会および10月14日に実施された見学会について報告があった。(相互協力委員会との合同委員会については前述のとおり)

(9) 図書館管理・運営実務責任者会議

理事校南山大学(栗山)より資料(p.11)に基づき、会議を2回実施した事について報告があった。

(10) 東海地区大学図書館協議会

東海地区大学図書館協議会運営委員校南山大学(栗山)より、資料(p.19-22)に基づき館種を超えた公共図書館、国公立大学図書館の連携・協力を目的とし、東海地区図書館協議会が発足し、資料の貸借や共同レファレンス、研修事業における協力などを視野に活動を検討していくという報告があった。なお、この協議会の構成は、東海地区(愛知・岐阜・三重・静岡)の各県立図書館、名古屋市鶴舞中央図書館、東海4県下の主要国立大学、名古屋市立大学、南山大学、中京大学、金城学院大学の13図書館が理事となり名古屋大学が会長校となった。

この件について加盟館にどのようにして周知を図っていくかなど、早急に検討する必要があることが確認された。

2. 協議事項

(1) 相互協力委員会・情報化委員会の統合および規程改正について

理事校南山大学(栗山)より資料(p.23-25 および別添資料)に基づき、次年度相互協力委員会と情報化委員会を図書館サービス・システム委員会(仮称)へ統合したいとの提案があり、これを承認した。

続いて統合に伴い、新委員会(図書館サービス・システム委員会 仮称)規程の設置、相互協力委員会、情報化委員会規程の廃止、それに伴う関係規程・申し合せ事項の改正、その他文言変更に伴う規程改正(交付金 支援費、賛助会員 広告掲載費)について提案があり、承認された。

また資料で2005年4月1日と記載されている規程の施行日は、総会での承認が得られた後、2005年度の総会開催日に改める。

(2) 「館灯」の配布部数等について

研究会幹事校中京大学(中河原)より、資料(p.26 および別添資料)に基づき、2003年度に制定された申し合せ事項に対し修正案が提出され、審議の結果、一部を改め

以下のとおり承認した。

また掲載されている館員名簿について現行では各図書館の任意で記載対象となっている派遣職員・臨時職員について対象外とする事が提案され、審議の結果、承認された。

現在、1000部印刷し、全国の大学、東海地区図書館に各1冊、名簿記載の各館員に1冊ずつ配布しており、2004年度分は約40部の残部がある。次年度の印刷部数をどうするかについて確認が求められ、審議の結果、2005年度については従来どおりの1000部印刷し、以降の年度について保存および配布について見直し検討する事となった。

現行の申し合せ事項	修正を求める箇所	その理由 / 審議内容	修正確定案
5. 論文の掲載順序は研究集会の講演者・研究発表者・投稿者の順とする。	「研究会並びに研究集会」と改める。 「者」を削除する。	研究会の発表についても論文掲載されているため / 二つに限定されない他の行事の研究発表なども掲載される	「研究集会の」を削除する。 「者」を削除する。
6. 「館灯」に掲載された論文(研究集会の講演者・研究発表者・投稿者によって執筆されたもの)は、「東海地区協議会ホームページ」で公開する。	「研究集会の」を削除する	5の修正に連動した変更	「研究集会の」を削除する
7. 加盟館館員名簿は、当該年度末在籍者の名簿とする。	「次年度4月1日現在」と改める	4月1日付異動を名簿に反映させる為 / 過去、異動を極力反映させたいという意向から基準日がルーズになってしまったため年度末と定めた経緯がある。現在刊行配布が翌5月頃であり、ずれた情報になってしまう。年度内に刊行配布できるよう変更すれば是正される	「末」を削除する。 年度内異動を反映した正確な名簿については別途検討する 上述のとおり記載対象外とされた派遣・臨時職員について、在籍人数を表示させる事の提案があったが、別途検討し、館灯には表記しないこととした

(3) 2005-06年度委員校について

理事校南山大学(栗山)より資料(p.27-28)に基づき、説明提案があり、これを承認した。

(4) 2009(平成21)年度以降の東海地区協議会理事校について

理事校南山大学(栗山)より資料(p.29-30)に基づき、2009・2010年度理事校を担当する予定になっていた朝日大学から学生数の大幅な減少により理事校当番を辞退したい旨の申し出があったことにつき、この申し出を受理し、次順(2011・2012年度理事校担当予定)の名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館の担当年度を繰り上げたいとの提案があり、これを承認した。なお名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館から了解を得ているとの報告があった。

また2011年度以降のローテーションについて提案があり、審議の結果、これを承

認し、次年度総会へ諮る事とした。

3. その他

- (1) 東海地区協議会および関連団体2005年度行事予定表について
理事校南山大学(栗山)より資料(p.31)に基づき、すでに日程が決定しているものなど現状の報告があった。
- (2) 平成17年度私立大学図書館協会東海地区協議会研究会事業計画について
次年度研究会幹事校東海女子大学・東海女子短期大学(大西)より、別添資料に基づき、年度テーマ他、研究会・研究集会の計画案の説明があった。

以上